

WAIC 2026

調査報告書

中国・上海における AI フルスタック競争と
日本企業への戦略提言

GPT-5.6 Sol

対象会期 2026 年 7 月 17 日-20 日

調査基準日 2026 年 7 月 19 日（日本時間・会期中間）

重要 本報告書は、7 月 19 日夕刻までに公開確認できた情報に基づく暫定評価である。7 月 20 日のセッション、閉幕発表、最終来場者数・商談実績、受賞結果等は未反映であり、確定版ではない。

経営・事業戦略検討用

作成日：2026 年 7 月 19 日

エグゼクティブ・サマリー

総括 WAIC 2026 は「中国が AI 競争に勝った」ことの証明ではない。しかし、近接した基盤モデル、低価格 API、国産計算基盤、エージェント、フィジカル AI、巨大な実装市場、国際ルール形成を束ねた“代替フルスタック”が、中国で現実の競争単位になったことを示す強いシグナルである。日本企業にとって、無視するリスクは高い一方、無条件に依存するリスクも同じく高い。

経営判断に必要な 8 つの結論

- 1 | 規模は過去最大級。** 出展 1,100 社超、展示 3,000 点超、展示面積 10 万㎡超、世界初公開 300 点超。前年の最低値との単純比較で、出展社数は少なくとも 37.5%増、世界・中国初公開は 3 倍以上となった。来場者最終値は未確定である。[2][3][5]
- 2 | 主役は“チャット”から“実行”へ。** 会場の共通軸は、エージェント、具身・フィジカル AI、超ノード型計算基盤、AI for Science、ガバナンスである。価値基準がモデル規模から、仕事を完遂できるか、現場で安全・効率的に運用できるかへ移っている。[3][13]
- 3 | 中国モデルは一部用途で最前線に近い。** Moonshot AI の Kimi K3 は 2.8 兆パラメータ、100 万トークン文脈、ネイティブ画像入力を掲げ、独立評価 Vals で総合 2 位、Arena の Web 開発で暫定 1 位となった。一方、提供元自身が最上位米国モデルとの UX 差、過剰な自律判断、思考履歴依存を認めている。[14][16][17][18]
- 4 | “オープン”は現時点で条件付き。** Kimi K3 の全重み公開予定は 7 月 27 日で、調査基準日時点では API 提供が中心である。ライセンス、実重量、再現性、学習データ由来、商用制限を確認するまでは、オープンウェイトを既成事実として扱わない。[14][16]
- 5 | 計算基盤の国産化はシステム競争。** Huawei Atlas 950 は 1,024 基の Ascend を単一システムとして見せ、チップ単体ではなく相互接続、統一メモリ、ソフトウェア生態系を競争軸にした。ただし性能・商用成熟度の多くは企業発表で、独立検証が必要である。[3][10][19]
- 6 | ロボットはショーから工程へ進みつつある。** 300 台超のロボット、EV 模擬ライン、複数メーカー機を同一具身モデルで動かす薬局、長時間協調作業が展示された。だが稼働率、MTBF、歩留まり、安全認証、総保有コストは公表が乏しく、量産導入の証明とは分けるべきである。[3][20]
- 7 | WAICO は技術会議を地政学の場に変えた。** 29 か国が世界人工知能協力機構（WAICO）設立協定に署名し、本部を上海に置く構想が具体化した。国際報道は、中国が米国主導枠組みに対抗してグローバルサウスを軸にルール形成力を高める動きと評価している。[7][8][9]
- 8 | 日本の勝ち筋は“信頼性を実装する層”。** 汎用モデルの規模競争だけを追うのではなく、精密機械、安全、品質、OT 統合、現場データ、保守で強みを出す。モデルは米・日・中を用途別に

選び、切替可能なゲートウェイと統制層を自社資産にする。これは日本の人工知能基本計画（第Ⅱ期）が掲げるバーティカル AI、フィジカル AI、開かれた AI 主権とも整合する。[27]

取締役会・経営会議で直ちに決める 5 事項

決定事項	推奨する意思決定	放置した場合のリスク
責任体制	90 日限定の“中国 AI／フィジカル AI タスクフォース”を設置し、事業・IT・法務・知財・安全を統合	技術評価と契約・安全判断が分断
モデル方針	単一国・単一社に寄らないマルチモデル方式。用途ごとに性能・コスト・データ境界を設定	ロックイン、供給遮断、価格改定
データ境界	機密度 3 段階と越境・学習利用の禁止条件を先に定義	営業秘密・個人情報・規制データの流出
実証投資	公開／合成データに限る 2-3 件の隔離 PoC を 100 日以内に実施	評価しないまま機会損失、または現場で無秩序導入
フィジカル AI	デモ性能でなく稼働率・安全・歩留まり・回収期間をゲートにする	“見栄えの良い実証”が量産投資に化ける

本報告書の構成

章	内容
1	調査範囲・方法・限界
2	WAIC 2026 の概要と規模
3	会議・展示の主要内容
4	注目技術・製品の評価
5	評価・評判：何が高く評価され、何が未検証か
6	日本企業への影響
7	日本企業への戦略提言
8	100 日アクションプランと KPI
付録	評価手法、デューデリジェンス、会期後更新事項、参考文献

1. 調査範囲・方法・限界

1.1 調査対象

2026 年 7 月 17 日から 20 日に上海で開催中の「2026 世界人工知能大会（WAIC 2026）暨人工知能グローバルガバナンス・ハイレベル会議」を対象とし、会議構成、展示・製品、研究テーマ、政策・外交、国内外の評価を調べた。隣接行事として 7 月 16 日に署名された WAICO 設立協定も、会議の戦略的意味を左右するため対象に含めた。

1.2 情報源と判定ルール

優先度	情報源	本報告書での扱い
A	主催者・政府・制度文書・企業の一次資料	日付、会期、発表内容、契約条件の確認に使用。ただし政策広報・企業主張は客観的成果と同一視しない
B	Reuters、AP、FT 等の国際報道	外交的含意、参加構成、市場の受け止めを補完
B	Vals、Artificial Analysis、Arena 等の第三者評価	モデル性能・価格・順位を検証。ただし評価設定・ハーネス差を明示
C	中国国営・業界メディア、企業幹部コメント	現地の問題意識・評判を把握。独立事実確認なしに一般化しない

1.3 重要な限界

- 会期途中であり、7 月 20 日のプログラム、閉幕声明、最終来場者数、最終契約額、受賞結果は未確定である。
- 展示会は企業・政府の選択した成功例が中心で、失敗率、運用停止、保守費、安全インシデントを観察しにくい。
- Huawei 等のハードウェア性能は主にベンダー発表で、同一条件の独立ベンチマークが不足する。
- 中国の産業規模・トークン利用量等は定義が広く、監査済みの国際比較値とは限らない。
[24][25]
- 本報告書は経営・技術戦略の検討資料であり、個別案件の法律意見、輸出管理判定、個人情報保護判断を代替しない。

2. WAIC 2026 の概要と規模

2.1 基本情報

項目	確認内容
正式名称	2026 世界人工知能大会暨人工知能グローバルガバナンス・ハイレベル会議
会期	2026 年 7 月 17 日-20 日（本報告書作成時点では開催中）
開催地	上海：世博地区、張江、西岸の 3 エリア・4 会場
テーマ	「智能伙伴 共创未来」／AI Partnership for a Brighter Future（知能のパートナーと未来を共創）
位置付け	2018 年創設。2026 年は第 9 回。2024 年以降、AI グローバルガバナンスを主要議題化
構成	フォーラム、展示、表彰・競技、体験、イノベーション／孵化、人材・採用の 6 部門
主な主催側	中国外交部、国家発展改革委員会、工業情報化部、教育部、科学技術部、国務院国資委、国家インターネット情報弁公室、中国科学院、中国科学技術協会、上海市

注：公式・主催者情報。[1][2][4]

2.2 規模：前年比で“量”も“初公開”も拡大

指標	WAIC 2025	WAIC 2026	読み方
出展社	800 社超	1,100 社超	最低値比較で 37.5%以上増
展示品	3,000 点超	3,000 点超	量は高止まり。内容がエージェント／具身／算力へ
初公開	100 件超	世界初公開 300 件超	最低値比較で 3 倍以上。ただし 2025 は“国内または世界初”を含む
フォーラム	100 超	140 超	最低値比較で 40%以上増
登壇者・ゲスト	1,200 人超	1,400 人超	最低値比較で 16.7%以上増
展示面積	同一次資料で数値確認せず	10 万 m ² 超	2026 年に初めて 10 万 m ² を突破
来場者	報道値あり	未確定	会期終了後に公式値を確認する必要

注：2025 年と 2026 年は分類・集計範囲が完全には一致しないため、増加率は概算・最低値比較。[2][3][5]

2.3 需要の強さ

開幕前後に単日展示券や多くのフォーラム券が売り切れたとの中国メディア報道があり、一般・産業界の関心は高い。[32] ただしチケット完売は技術の事業価値や投資収益を直接証明するものでは

ない。重要なのは、AI が専門家向け会議から、採用、都市体験、調達、投資を巻き込む産業イベントへ拡張した点である。

2.4 会場が示した“6 層の競争”

層	WAIC 2026 での象徴	競争の本質
6 国際ルール	WAICO、議長声明、標準相互承認	誰の価値観・規格・認証が新興国市場で使われるか
5 市場・シナリオ	57 の中核シナリオ、162 億元の意向協力	実需要、調達、データの循環
4 アプリ／エージェント	DuMate、WPS Lingxi、WorkBuddy	会話でなく業務完遂、権限設計、監査
3 フィジカル AI	EV ライン、薬局、協働ロボット	安全・稼働率・工程統合・保守
2 基盤モデル	Kimi K3、MiniMax M3 等	性能／価格／言語／オープン性
1 算力・インフラ	Atlas 950、Sugon 8000	相互接続、メモリ、電力、ソフトウェア、供給耐性

注：57 シナリオ・162 億元は主催者側の累計／意向値であり、実行済み売上とは異なる。[2]

3. 会議・展示の主要内容

3.1 ガバナンス：技術会議から制度・外交の場へ

習近平国家主席は WAIC に初出席し、①開放・共栄、②リスク意識と人間による制御、③文明・文化の多様性、④国連を軸とする多国間ガバナンスの 4 点を提示した。さらに、今後 5 年で途上国向け AI 研修 5,000 人枠、ASEAN・アラブ連盟・アフリカ連合・CELAC・SCO・BRICS との AI 応用協力センター、AI 気象警報「媽祖」の 30 か国展開を表明した。[6]

議長声明は、AI+産業、責任あるオープンソース、データ権利・プライバシー、グリーン AI、雇用、重要インフラ、先端モデルのガードレール、エージェントの権限境界と追跡性、サプライチェーン、標準相互承認など 15 項目を列挙した。[7] 技術テーマと制度テーマが同じ文書で結び付けられた点が重要である。

WAICO の戦略的意味

確認事実	評価	日本企業への含意
7 月 16 日、29 か国が設立協定に署名。独立した政府間国際組織、本部は上海を予定。[7][8]	2025 年の提案が 1 年で組織化段階へ進んだ。中国の制度構築スピードを示す	中国・グローバルサウス案件で、調達要件・監査・標準に影響する可能性
人間中心、安全、公平、能力構築、国連憲章尊重を掲げる。[7]	理念は国際的に受容されやすい。一方、適用・監督・透明性は今後の制度設計次第	理念ではなく、加盟国、条約発効、認証制度、技術標準、事務局権限を追跡
国際報道は米国主導の Pax Silica 等への対抗軸と位置付け。[9][10]	AI ガバナンスが相互運用性を高める場にも、ブロック分断を深める場にもなり得る	G7/広島 AI プロセス、ISO/IEC、WAICO の差分を法務・標準部門が管理

確認待ち 調査基準日時点で、日本が設立メンバーであるとの公表は確認できなかった。ただし、正式な全加盟国リスト、各国の批准状況、条約発効要件は会期後に一次文書で再確認すべきである。

3.2 エージェント：回答から業務完遂へ

Baidu の DuMate は検索、コード、調査、データ分析、アプリ構築、配車等の外部サービス利用を、Kingsoft の WPS Lingxi は文書・会話から継続プロジェクトや文体を学習する機能を、Tencent の WorkBuddy は複数エージェントの協調を展示した。[3] 共通するのは、単発生成ではなく、記憶、計画、ツール呼出し、実行、検証を含む点である。

中国企業幹部の議論では「モデル性能の差は縮小し、エンジニアリング差が拡大する」との見方が示された。[36] 企業導入の成否は、基盤モデルの順位より、権限、データ接続、例外処理、監査、ユーザー体験、継続評価で決まるという認識で、日本企業にもそのまま当てはまる。

3.3 フィジカル AI：工場・小売・協働へ

会場には 300 台超のロボットが集まり、模擬 EV 生産ラインでは視覚・触覚を備えたロボットが部品把持、ねじ締め、配線、点灯試験、環境変化への適応を行った。スマート薬局では、異なるメーカーの 3 機を同一具身モデルで制御し、ランダム受注から薬品取り出し・配送までを分担する例が紹介され、上海の薬局で導入済みとされた。[3]

この方向性は、従来の歩行・ダンス中心のショーから工程単位の価値へ進むことを示す。ただし、会場デモと 24 時間操業は別物である。公表資料だけでは、平均故障間隔（MTBF）、人の介入率、サイクルタイム、歩留まり、安全停止、保守部品、学習更新時の再認証、投資回収期間を判断できない。

3.4 AI for Science・学術プログラム

WAIC Academic（WAICA）は 7 月 18–20 日に、科学向けマルチモーダルエージェント、数理モデリング・科学計算、宇宙知能計算、AI による量子研究加速、空間インタラクションと具身 AI 等を組んだ。論文・ワークショップには、サンドボックス内のエージェント強化学習、ツール利用評価、医用画像、分子生成、GPU クラスタ、エッジ推論、トークンルーティング、故障診断などが並ぶ。[21][22]

受賞研究者・著名研究者の講演では、AI が研究時間を短縮する可能性、経験から学ぶ AI、適応型人材育成などが論じられた。[23] ただし WAICA は新しい中国主導プラットフォームであり、NeurIPS や ICML 等と同等の学術的地位を前提にせず、採択率、査読、追試、引用実績を数年追う必要がある。

4. 注目技術・製品の評価

4.1 Kimi K3：近接する性能、条件付きの“オープン”

項目	確認できた内容	評価
アーキテクチャ	2.8 兆パラメータ、MoE で 16/896 エキスパートを活性化、100 万トークン文脈、画像入力、Kimi Delta Attention 等。[14]	規模は大きいですが、パラメータ数は知能・信頼性の直接指標ではない
提供形態	アプリ・API は提供開始。全モデル重みは 7 月 27 日までに公開予定。[14]	7 月 19 日時点では重み未公開。オープンウェイト評価は保留
独立評価	Vals 74.70%で総合 2 位。WebDev Arena 暫定 1 位（1,757 票）。Artificial Analysis は指数 57 で 3 位、Fable 5 と GPT-5.6 Sol には届かず。[16][17][18]	コーディング・エージェント系で最前線に近い。ただし評価器・ハーネス・設定差あり
価格	API は 100 万トークン当たりキャッシュ入力 0.30 ドル、非キャッシュ入力 3 ドル、出力 15 ドル。[14]	最高位群に比べ競争的だが、旧世代中国モデルより高い。冗長出力を含むタスク単価で評価
自己ホスト	提供元は 64 基以上のアクセラレータを持つスーパーノード構成を推奨。[14]	多くの一般企業には重い。小型モデル、量子化、API の方が現実的
既知の制約	思考履歴の受け渡しに敏感、過剰な先回り判断、最上位米国モデルとの UX 差を提供元が明記。[14]	自律エージェントで最小権限・人承認が必須。途中モデル切替にも注意
信頼性	Artificial Analysis では正確率改善の一方、幻覚率が K2.6 の 39% から K3 の 51%へ悪化した評価。[16]	“総合点が高い＝事実性が高い”ではない。日本語・自社業務で再評価

判断

実務評価 Kimi K3 は、中国の基盤モデルを“安価な二番手”とみなす前提を崩す。特にコード生成、長時間タスク、マルチモーダル業務では比較対象に入れるべきである。一方、機密データを外部 API に投入したり、重み未確認のまま“自社運用可能なオープンモデル”と位置付けたりするのは早い。

4.2 Huawei Atlas 950：チップではなく“超ノード”

Atlas 950 SuperPoD の実機は、16 キャビネット・1,024 基の Ascend プロセッサを単一システムとして見せた。Huawei は、FP8 で 1 EFLOPS、FP4 で 2 EFLOPS、256TB の統一メモリアドレス空間、約 3 マイクロ秒の RTT を主張し、CANN の 1,244 万行超のオープンソース、月間 3,500 人超の開発者、旧 Atlas 384 の 750 台超導入を併せて訴求した。[3][19]

高く評価できる点	未検証・確認すべき点
----------	------------

高く評価できる点	未検証・確認すべき点
輸出規制下でも、アクセラレータ、相互接続、メモリ、ソフトウェアを一体設計し、国内代替を成立させようとしている	同一モデル・同一精度・同一電力条件での学習／推論性能、歩留まり、故障率、保守、商用供給量
MoE・長文脈・高並列推論に合わせ、カード枚数より通信と統一メモリを前面に出した	NVIDIA 等とのソフトウェア移植性、演算子対応、デバッグ、クラスタ利用率、電力・冷却コスト
CANN 等の生態系を同時に拡大し、ハード単体競争を避けている	“オープン”範囲、コミュニティの独立性、国際開発者の厚み、セキュリティ検証

注：性能値・導入数は Huawei 発表であり、独立検証済みの比較値ではない。[19] 国際報道は米国技術に依存しない国内算力代替として注目。[10]

4.3 具身 AI・産業ロボット：採用条件は“99%のデモ”ではない

展示シグナル	事業的な意味	量産前の必須 KPI
視覚・触覚で EV 部品を扱う	知覚・操作・工程判断の統合	成功率、サイクルタイム、部品ばらつき耐性、停止復帰
同一モデルで異メーカー3 機を制御	ロボット基盤モデルの共通化・相互運用	機種追加工数、API 互換性、安全責任、モデル更新時の検証
6 機で 15 時間の協働組立	長時間計画・役割再配分	介入回数、タスク再計画時間、故障時縮退、電力
薬局で導入済み	研究デモから実店舗へ	店舗数、処理件数、誤出庫、監査、薬機・個人情報対応

4.4 オフィス AI・端末・BCI

WPS Lingxi や WorkBuddy は、既存文書・会話・複数エージェントを業務基盤に組み込む方向を示した。Qwen Glasses S1、40g の iFlytek 翻訳眼鏡、非侵襲 EEG によるゲーム操作は、AI がスマートフォン外の常時利用端末へ広がる流れである。[3] 日本企業にとっては、端末単体より、録音・撮影の同意、顔・音声・位置データ、バッテリー、誤認識、現場安全、企業ネットワークへの接続を含む運用設計が競争軸になる。

4.5 技術別の成熟度まとめ

領域	技術シグナル	商用証拠	総合評価	推奨対応
基盤モデル	高	中～高	A-	直ちに比較評価。機密は隔離
エージェント	高	中	B+	読取専用から PoC。権限制御を先行
超ノード／国産算力	高	中（企業発表中心）	B+	供給網・互換性を監視。独立測定

領域	技術シグナル	商用証拠	総合評価	推奨対応
産業ロボット／具身 AI	高	中～低	B	工程限定で実証。MTBF・ROI ゲート
AI 眼鏡・端末	中～高	中	B	中国市場・現場作業で限定評価
WAICO／標準	高	制度初期	A-（影響力）	参加国・標準・認証を常時監視

注：評価は本報告書独自。A＝経営上の優先度が高い、B＝選択的実証、C＝監視中心。投資格付けではない。

5. 評価・評判：何が高く評価され、何が未検証か

5.1 好意的評価

- 規模と熱量：出展・初公開・フォーラムが増え、券売切れも報じられた。中国国内で AI 投資・採用・起業の磁場が維持されている。[2][3][32]
- フルスタック性：モデルだけでなく、算力、端末、ロボット、製造、医療、投資、採用、標準を同じ会場で接続した。
- 性能／価格：Kimi K3 は複数の独立評価で最上位群に入り、中国モデルのコスト競争力とエージェント能力を裏付けた。[16][17][18]
- 実装志向：医療エージェントの施設展開、薬局、製造ライン等、実際のシナリオを訴求した。[2][3]
- ガバナンス実行力：WAICO は提案から設立協定署名まで進み、能力構築支援と標準形成を制度化し始めた。[6][7][8]

5.2 慎重な評価・批判的視点

- 国家・産業ショーケース：公式統計や展示は成功例を選ぶ。出展数や意向契約額は、生産性・利益・継続利用を保証しない。
- 国際代表性の偏り：100 超の国・機関から参加とされる一方、Reuters は米国大手テックの存在感が弱いと報じた。“世界”会議でも技術陣営を均等に映してはいない。[7][10]
- ベンチマークの限界：Kimi K3 は評価ごとに順位が異なり、WebDev Arena は暫定かつ票数が上位他モデルより少ない。日本語、事実性、長期安定性、企業 SLA は別評価が必要。[14][16][18]
- オープン性の時差：重みは未公開で、Arena は調査時点で Kimi K3 を Proprietary と表示。発表文の“open”と実際に取得・改変・商用利用できる状態を分ける。[14][18]
- ロボットの“デモ問題”：会場での成功率と工場の年間稼働は異なる。安全、保守、例外処理、TCO の公開が不足。
- ガバナンス分断：WAICO は包摂を掲げるが、米中の別枠組み競争が標準・クラウド・データルールの二重化を招く可能性がある。[9][34]

5.3 評判の発信主体別マップ

発信主体	主な評価	バイアス／留意点	本報告書の読み替え
中国政府・主催者	開放、普惠、産業高度化、規模拡大を強調	政策広報。定義・分母・監査情報が限定	方向性と政策資源の所在を読む
中国企業・業界	エージェント、国内算力、具身 AI の実装速度を評価	製品 PR、株式市場テーマ化の影響	仕様と導入実績を分離

発信主体	主な評価	バイアス／留意点	本報告書の読み替え
国際通信社・有力紙	中国の AI 外交・米国への対抗軸を重視	技術詳細より地政学を強調しやすい	ルール形成・供給網リスクを補完
独立ベンチマーク	Kimi K3 の最上位群性能を概ね確認	タスク、設定、評価器で順位変動	自社データの再現テストが最終判断
一般来場・都市イベント	ロボット・端末への高い関心	新奇性と事業価値が混同され得る	採用・ブランド・需要形成の指標

5.4 総合評価

評価軸	評価	根拠
戦略的重要性	A	技術、産業、外交、標準を一体化
技術の幅	A	算力からモデル、ロボット、端末、科学まで
先端モデルの実証	A-	第三者評価あり。ただし重み未公開・制約あり
量産・ROI の実証	B-	導入例はあるが運用 KPI の公開不足
国際ガバナンス影響力	A-	29 개국設立協定。制度の実効性は今後
国際的代表性	B	参加は広いが米国大手テックが弱い
独立検証の厚み	B-	モデルは検証進展、ハード／ロボットは企業発表中心

評価 結論：WAIC 2026 を過小評価すべきでないが、展示スペックをそのまま調達要件にしてもいけない。“高い戦略シグナル、まだらな商用証拠”として扱うのが妥当である。

6. 日本企業への影響

6.1 競争の単位が変わる

競争相手は個々の中国 AI 企業ではなく、低価格モデル、国内算力、ソフトウェア、巨大な製造・小売シナリオ、政府調達、資本、標準形成が循環する生態系である。日本企業が“良い部品・良い装置”だけで競争しても、エージェント層やデータ層を他社に握られると、顧客接点と改善データを失う。

6.2 産業別インパクト

業種	機会	脅威	優先対応
製造・自動車	視覚・触覚、工程エージェント、予兆保全、デジタルツイン	中国製ロボット／制御ソフトの価格・速度、現場データ囲い込み	工程限定 PoC、OT 安全、共通 API、現場データ権利
機械・ロボット	日本の精密、安全、減速機、センサー、保守力	汎用ヒューマノイドのコモディティ化	“信頼性レイヤー”を製品化。モデル非依存 SDK
電機・半導体・素材	超ノード向け電源、冷却、光・配線、メモリ、材料、検査	国産化による代替、輸出管理、顧客分断	技術不可欠性、複線供給、顧客・用途スクリーニング
ソフトウェア・BPO	低価格モデルで自動化、日中英の業務支援	コーディング／事務エージェントが工数売上を圧縮	成果課金、業務再設計、エージェント統制製品
金融・保険	調査、審査補助、顧客支援、不正検知	越境データ、説明責任、エージェント誤取引	読取専用、二重承認、取引上限、全ログ
医療・介護	画像、診療支援、物流、見守り、人手不足対応	誤診・安全責任、個人情報、認証差	臨床検証、人承認、医療機器該当性、データ局所化
小売・観光	中国語接客、翻訳眼鏡、需要予測、無人店舗	中国プラットフォームへの顧客データ集中	中国現地用とグローバル中核を分離

6.3 日本の政策との整合

日本政府が 7 月 14 日に閣議決定した人工知能基本計画（第Ⅱ期）は、パーティカル AI とフィジカル AI を勝ち筋とし、製造・サービス・インフラにエージェントを深く組み込むこと、特定国・企業への過度な依存を避け、相互運用性を確保した“開かれた AI 主権”を掲げる。[27] WAIC が示した方向と驚くほど近い。差は、日本が信頼性・現場力をどれだけ早く製品・標準・輸出可能な仕組みに変えられるかである。

6.4 4 つの立場で中国 AI を見る

立場	問い	行動
----	----	----

立場	問い	行動
競争相手	中国企業は自社顧客のどの工程・利益を奪うか	製品比較だけでなく、商流・データ・標準を分析
部品／モデル供給源	コスト・中国語・コード性能を安全に使えるか	機密度別に API／私有化を選択
中国市場への接続手段	現地規制・顧客・プラットフォームに適合できるか	中国子会社内でローカル運用、グローバル中核と分離
標準形成主体	将来の調達仕様・認証にどう影響するか	WAICO、ISO/IEC、各国制度の差分監視

7. 日本企業への戦略提言

提言の核心 基本方針は「使う／使わない」ではなく、「評価し、選び、隔離し、いつでも切り替えられる形で使う」である。モデルを資産とみなすより、モデルを交換可能にするデータ・権限・監査・現場統合を自社資産にする。

提言 1 | マルチモデル前提の“AI コントロールプレーン”を持つ

- 共通ゲートウェイで米国・日本・中国・社内モデルを切替可能にし、プロンプト、RAG、ツール、監査をモデルから分離する。
- タスクごとに性能、価格、遅延、データ所在、ライセンス、供給停止リスクをスコア化し、自動ルーティングする。
- ベンダー固有のエージェント記憶・プラグインに業務状態を閉じ込めず、顧客・案件・承認履歴は自社データ基盤に保持する。
- 切替演習を四半期ごとに実施し、“主要モデル停止から代替稼働までの時間”を KPI 化する。

提言 2 | データ機密度で利用境界を明文化する

区分	例	中国系ホスト API	推奨統制
Green 公開	公開資料、公開 Web、匿名化・合成データ	条件付きで可	契約、保存期間、学習利用、ログ、地域、再委託を確認
Amber 社内限定	低機密の社内文書、仮名化データ、一般コード	原則は企業テナント／私有環境。例外承認	学習利用禁止、DPA、暗号化、最小化、出力レビュー
Red 高度機密	営業秘密、未公開特許、顧客個人情報、重要インフラ、輸出管理情報	外部 API へ送信しない	承認済み国内／隔離環境。法務・安全・輸出管理の個別判定

個人情報を生成 AI へ入力し、提供事業者が学習等に利用する場合、個人データの第三者提供に該当し得るとの個人情報保護委員会の注意喚起がある。[29] また、中国で提供する生成 AI は入力・利用記録、個人情報、コンテンツ表示等の規制対象となり得る。[30][31] 日本本社と中国子会社で同一運用を前提にしない。

提言 3 | エージェントは“読取専用・最小権限”から始める

統制	最低要件
権限	読取専用を既定。書込・送信・支払・本番変更・OT 制御は人の都度承認

統制	最低要件
接続	許可したツール・ドメイン・データベースのみ。外部 Web と社内機密の同時接続を制限
実行	サンドボックス、金額／件数／時間上限、ロールバック、キルスイッチ
認証	エージェント固有 ID、短寿命資格情報、職務分離、多要素認証
監査	入力、参照、推論要約、ツール呼出し、出力、承認者、変更差分を改ざん耐性ログへ
評価	プロンプトインジェクション、データ持出し、権限逸脱、長時間タスク、途中復旧を継続テスト

注：議長声明もエージェントの決定権限、行動境界、追跡、リスク提示を明記。[7] 日本の AI 事業者ガイドラインは開発者・提供者・利用者の役割、プライバシー、トレーサビリティ、アジャイルガバナンスを整理。[28]

提言 4 | フィジカル AI では“日本の信頼性レイヤー”を商品化する

汎用ヒューマノイドの価格やデモ映えだけで中国勢と競うべきではない。日本が強い精密メカトロニクス、機能安全、品質保証、製造技術、故障診断、保守網、現場データを、どの基盤モデルにも載る共通層として商品化する。

- 安全：危険分析、フェイルセーフ、停止距離、力制限、人との協働、モデル更新時の再検証をパッケージ化。
- 品質：合否根拠、センサ校正、ドリフト検知、工程能力、トレーサビリティを組み込む。
- 統合：PLC／MES／SCADA／デジタルツインと標準 API で接続し、モデル・ロボットメーカーを交換可能にする。
- サービス：遠隔診断、部品供給、復旧手順、学習更新、責任分界をライフサイクル契約にする。
- 実証ゲート：成功率だけでなく MTBF、稼働率、介入率、歩留まり、サイクルタイム、電力、総保有コスト、回収月数で量産可否を決める。

提言 5 | 中国市場は“ローカル最適＋グローバル分離”

- 中国語・現地プラットフォーム・現地表示義務に適合するため、中国子会社で中国モデルを使う選択肢は合理的。
- 顧客データ、ログ、モデル改善データ、管理者権限を中国内で区画し、グローバル製品の設計情報・学習資産と混在させない。
- 本社へ戻すデータは集計・匿名化し、越境移転、再委託、リモート保守を個別にレビューする。
- 中国側サービス停止・仕様変更・規制変更を想定し、データエクスポート、代替モデル、終了支援を契約する。

提言 6 | オープンウェイト、知財、共同開発を契約で分解する

論点	確認事項
“オープン”の実体	重みが実際に取得可能か、ライセンス、商用・地域・用途制限、帰属表示、再配布、改変、派生モデル
学習データ・権利	学習データ由来の表明、著作権・人格権・個人情報、出力の権利、侵害補償、削除・オプトアウト
入力・ログ	学習利用の有無、保存期間、所在国、再委託、政府アクセス、監査権、削除証明
共同開発	背景知財、成果知財、改善発明、データ権、特許出願国、実施許諾、サブライセンス、競業利用
終了・可搬性	モデル・埋込み・評価データ・ログの返還、形式、移行支援、サービス停止時の継続
輸出・制裁	半導体・暗号・技術データ、最終用途・需要者、再輸出、各国規制の変更条項

提言 7 | 標準形成に“観客”として参加しない

- ISO/IEC JTC 1/SC 42、ロボット・機能安全、AI マネジメント、データ品質、エージェント相互運用の標準活動へ技術者を送り込む。
- WAICO の加盟国、事務局、作業部会、認証、調達条件を監視し、ASEAN・中東・アフリカ案件での実装を追う。
- G7／広島 AI プロセス、EU、中国、WAICO の要求差分を一枚のコントロールマトリクスにし、製品設計へ反映する。
- 日本の強みである安全、品質、保守、説明可能な工程管理を“国際調達で測れる指標”へ変換する。

提言 8 | 特許・技術インテリジェンスを重点領域へ再配分する

重点監視領域	見るべき発明・権利
超ノード／算力	相互接続、統一メモリ、近接・近存計算、液冷、電源、故障隔離、クラスタスケジューリング
基盤モデル	MoE ルーティング、スパース化、注意機構、KV キャッシュ、量子化、長文脈、マルチモーダル
エージェント	ツール選択、権限、記憶、監査、複数エージェント協調、復旧、プロンプト攻撃防御
具身 AI	視触覚統合、汎用行動方策、データ収集、シミュレーション、巧緻手、アクチュエータ、安全制御
端末	AI 眼鏡、常時センシング、低電力推論、プライバシー表示、BCI、現場支援 UI

7.9 用途別の推奨判断

利用場面	現時点の判断	条件
公開情報の中国語要約・翻訳	条件付きで実施	出典確認、ログ・学習利用の確認
公開コードの生成・テスト	隔離環境で PoC	依存関係・脆弱性・ライセンス検査、人レビュー
社内低機密ナレッジ検索	企業契約／私有環境で限定	学習利用禁止、アクセス制御、RAG 権限継承
営業秘密・未公開特許・顧客個人情報	外部中国 API には投入しない	承認済み隔離環境または別モデル
送信・支払・本番変更を伴うエージェント	原則見送り／限定実証	人承認、上限、サンドボックス、キルスイッチ、全ログ
生産設備の自律制御	工程限定 PoC のみ	機能安全、縮退、オフライン復旧、MTBF・ROI
中国企業との産業共同開発	選択的に実施	知財・データ・改善発明・終了・輸出管理を契約
標準・市場の監視	直ちに実施	四半期レビュー、責任部門、経営報告

8. 100 日アクションプランと KPI

8.1 0-100 日ロードマップ

期間	実行事項	成果物／ゲート
0-30 日	経営責任者を指名。事業、IT、データ、法務、知財、サイバー、製造安全、中国拠点で横断チーム。中国 AI 企業 30 社・技術 20 件のウォッチリスト。データ 3 区分と禁止用途を決定	責任表、モデル利用ポリシー、データ分類、監視ダッシュボード
31-60 日	Kimi、Qwen、GLM、DeepSeek 等と米日モデルを、自社の日本語／英語／中国語、コード、事実性、長時間エージェント、攻撃耐性、価格で横並び評価。公開・合成データのみ	評価ハートネス、再現可能なスコア、法務・安全レビュー、候補 2-3 件
61-100 日	隔離 PoC を 2-3 件。例：公開特許・技術情報分析、コードテスト、公開文書の中国語接客。エージェントは読取専用。フィジカル AI はシミュレーションまたは工程セル限定	PoC 結果、リスク残件、量産移行／中止判断、切替テスト
6-12 か月	モデルゲートウェイ、監査、評価を共通基盤化。中国拠点のローカル運用を区画。産業 PoC を KPI ゲートで拡張。標準・特許への参加を増やす	本番統制、ポータビリティ、現場 ROI、標準提案、知財ポートフォリオ

8.2 共通ベンチマーク設計

- 品質：正解率、タスク完遂率、根拠の正確性、幻覚、コードテスト合格率、日本語の敬語・専門語。
- エージェント：完遂までのステップ、誤操作、権限要求、介入率、途中復旧、長時間安定性。
- 安全：プロンプトインジェクション、データ持出し、越権、危険出力、ログ完全性、停止性。
- 経済性：100 タスク当たり総費用、再作業、出力トークン、遅延、ピーク同時実行、運用人員。
- 可搬性：別モデルへ移す日数、精度低下、再調整工数、データ・ログ移行率。
- フィジカル AI：MTBF、稼働率、成功率、介入率、サイクルタイム、歩留まり、安全停止、電力、回収月数。

8.3 経営ダッシュボード KPI

カテゴリー	月次／四半期 KPI	推奨目標の考え方
価値	時間削減、売上寄与、品質向上、人の再作業率	モデル順位でなく業務成果
リスク	ポリシー違反、誤送信、越権、重大幻覚、インシデント	重大事故ゼロ。軽微事例は学習資産化
集中	最大ベンダー比率、最大国比率、代替可能タスク比率	特定社・国への過度依存を可視化

カテゴリー	月次／四半期 KPI	推奨目標の考え方
可搬性	代替稼働までの時間、移行成功率	四半期に一度、実切替を訓練
知財	FTO 完了率、重点特許出願、契約で確保した改善発明・データ権	PoC 前に権利境界を確定
標準	委員会参加、提案、採択、顧客仕様への反映	参加数でなく調達要件への影響
現場	MTBF、稼働率、介入率、歩留まり、ROI	量産ゲートを事前合意

8.4 会期後に更新すべき事項

1. 7 月 20 日の最終セッション・閉幕発表、来場者数、商談・契約の確定値、SAIL 等の受賞結果。
2. WAICA の 7 月 20 日プログラム、論文・動画・講演資料、採択統計。
3. WAICO の正式加盟国一覧、協定本文、批准・発効要件、事務局・予算・標準部会。
4. Kimi K3 の 7 月 27 日までの重み・技術報告・ライセンス公開と、第三者による再現テスト。
5. Atlas 950、Sugon 8000、具身 AI 展示の商用供給、顧客、独立性能、運用 KPI。

結論

WAIC 2026 の最大の意味は、単一のモデルやロボットではなく、中国が“AI を社会へ実装する全体能力”を競争単位として提示したことにある。モデル性能は一部で最上位群に入り、算力は国内代替をシステムとして見せ、ロボットは工場・薬局へ接近し、WAICO は制度輸出の器になった。

日本企業は、基盤モデルの巨大化だけを追う必要はない。しかし、現場力を標準化・ソフトウェア化せず、モデルやエージェント層を他社任せにすれば、品質や装置の強みも価格競争に埋没する。日本の勝ち筋は、バーティカル AI とフィジカル AI に“信頼性、安全、品質、保守、切替可能性”を埋め込み、世界のどのモデルとも組める不可欠な層になることである。

最終メッセージ 推奨する経営姿勢：過小評価しない。過信しない。比較評価する。機密を分離する。切替可能にする。現場 KPI で量産を決める。標準形成へ入る。

付録 A. 証拠ラベルと読み方

ラベル	意味	例	判断への使い方
確認済み事実	複数または一次資料で確認	会期、出展数、署名、公開価格	計画の前提に使用可
主催者発表	政府・主催者の集計・表明	意向契約額、産業規模、シナリオ数	方向性は重視、監査値としては扱わない
企業発表	ベンダーの仕様・導入数	Atlas 950 性能、ロボット導入	PoC 条件の仮説。調達前に独立検証
第三者評価	独立機関・ユーザー投票	Vals、Artificial Analysis、Arena	有力な比較材料。自社タスクで追試
未確定	会期後／将来公開を要する	来場者数、Kimi 重み、WAICO 発効	契約・投資判断の前提条件

付録 B. ベンダー／モデル・デューデリジェンス

領域	確認質問	必要証拠
企業・供給	契約主体、所有関係、財務、サービス地域、停止実績、制裁・輸出規制影響	登記、SLA、BCP、監査報告、供給計画
モデル	バージョン固定、更新通知、評価設定、長文脈、ツール呼出し、既知制約	モデルカード、変更履歴、再現スクリプト
オープン性	重み取得、ライセンス、商用・地域・用途制限、派生物、再配布	重みハッシュ、LICENSE、利用規約
データ	入力・出力・ログの所有、学習利用、保存、所在、削除、再委託、越境	DPA、データフロー、削除証明、再委託一覧
安全	レッドチーム、越権、プロンプト攻撃、脆弱性対応、インシデント通知	評価結果、SBOM、脆弱性方針、通知 SLA
知財	学習データ表明、出力権利、侵害補償、共同発明、改善モデル	保証条項、補償、知財別紙
運用	可用性、遅延、スループット、サポート、監視、バックアップ、出口計画	SLA、運用手順、移行テスト
物理 AI	MTBF、安全規格、停止、保守、部品、モデル更新時の再認証、責任分界	試験報告、リスクアセスメント、保守契約

付録 C. 参考文献

本文中の参照番号 [n] に対応する。全 URL の最終確認日は 2026 年 7 月 19 日。中国語資料のタイトルは原題または内容を示す日本語訳を併記した。

- [1] World Artificial Intelligence Conference (随時), WAIC 公式サイト. <https://www.worldaic.com/cn/> (最終確認: 2026-07-19)
- [2] 経済日報／新華網 (2026-07-17), 「加速构建人工智能产业高地——写在 2026 世界人工智能大会开幕之际」. <https://www.news.cn/tech/20260717/179dd754d5b84cb5ada86ae7db7f0896/c.html> (最終確認: 2026-07-19)
- [3] Shanghai Municipal Government (2026-07-17), WAIC 2026: Must-see exhibits. <https://english.shanghai.gov.cn/en-ParticipateExplore/20260717/36193160d9d94efb9c0aa5fa4fbcd5fd.html> (最終確認: 2026-07-19)
- [4] 新華網 (2026-07-14), 2026 世界人工智能大会・開催概要（主催者、規模、産業統計）. <https://www.news.cn/politics/20260714/d8880606cfd49ae88811f327dbb4cec/c.html> (最終確認: 2026-07-19)
- [5] Shanghai Municipal Government (2025-07-25), WAIC 2025 to showcase global AI innovation in Shanghai. <https://english.shanghai.gov.cn/en-WAICLatest/20250725/8e0f93ebdabb4b3f902c77734ea687b9.html> (最終確認: 2026-07-19)
- [6] 新華網 (2026-07-17), 「习近平在 2026 世界人工智能大会暨人工智能全球治理高级别会议开幕式上的主旨讲话（全文）」. <https://www.news.cn/politics/leaders/20260717/72728b6f94154d63b3eaaaf9808b51eb/c.html> (最終確認: 2026-07-19)
- [7] 新華網 (2026-07-17), 「2026 世界人工智能大会暨人工智能全球治理高级别会议主席声明（全文）」. <https://www.news.cn/20260717/3310820b96f949979ce6406712094935/c.html> (最終確認: 2026-07-19)
- [8] Reuters (2026-07-16), Twenty-nine countries sign agreement to establish global AI cooperation body. <https://www.reuters.com/world/china/twenty-nine-countries-sign-agreement-establish-global-ai-cooperation-body-2026-07-16/> (最終確認: 2026-07-19)
- [9] Reuters (2026-07-17), Xi pitches China as leader of new global AI order, challenging US dominance. <https://www.reuters.com/world/asia-pacific/chinas-xi-promotes-chinas-commitment-ai-access-speech-shanghai-conference-2026-07-17/> (最終確認: 2026-07-19)
- [10] Reuters (2026-07-16), China's Xi to outline AI diplomacy vision at key Shanghai forum. <https://www.reuters.com/world/china/chinas-xi-outline-ai-diplomacy-vision-key-shanghai-forum-2026-07-16/> (最終確認: 2026-07-19)
- [11] Associated Press (2026-07-17), Xi calls for AI cooperation and expanded access at Shanghai conference. <https://apnews.com/article/df4cfc7e1b260e765b5449b6d71a48e5> (最終確認: 2026-07-19)
- [12] Financial Times (2026-07), China steps up bid for global AI leadership at Shanghai summit. <https://www.ft.com/content/ddb316b4-c6ae-4b9b-9d4a-63d63201d4fc> (最終確認: 2026-07-19)
- [13] CGTN (2026-07-17), Beyond bigger models: What WAIC 2026 reveals about AI's next chapter. <https://news.cgtn.com/news/2026-07-17/Beyond-bigger-models-What-WAIC-2026-reveals-about-AI-s-next-chapter-1QQOdVTqsg/p.html> (最終確認: 2026-07-19)
- [14] Moonshot AI / Kimi (2026-07-16), Kimi K3: Open Frontier Intelligence. <https://www.kimi.com/blog/kimi-k3> (最終確認: 2026-07-19)
- [15] Reuters (2026-07-17), China's Moonshot unveils world's largest open AI model, closing in on US rivals. <https://www.reuters.com/world/china/chinas-moonshot-unveils-worlds-largest-open-ai-model-closing-us-rivals-2026-07-17/> (最終確認: 2026-07-19)
- [16] Artificial Analysis (2026-07-17), Kimi K3 achieves #3 in the Artificial Analysis Intelligence Index. <https://artificialanalysis.ai/articles/kimi-k3-achieves-3-in-the-artificial-analysis-intelligence-index-comparable-to-opus-4-8-and-gpt-5-5> (最終確認: 2026-07-19)
- [17] Vals AI (2026-07-16), Kimi K3 evaluated on the Vals Index. <https://www.vals.ai/home> (最終確認: 2026-07-19)
- [18] Arena (2026-07-16), Code Arena | WebDev Overall. <https://arena.ai/leaderboard/code/webdev> (最終確認: 2026-07-19)
- [19] Huawei (2026-07-17), 「昇腾 950 超节点真机亮相 2026 世界人工智能大会」. <https://www.huawei.com/cn/news/2026/7/atlas-950-superpod> (最終確認: 2026-07-19)
- [20] Science and Technology Daily (2026-07-18), Embodied AI and domestic computing emerge as core WAIC tracks. https://www.stdaily.com/web/English/2026-07/18/content_549536.html (最終確認: 2026-07-19)
- [21] WAIC Academic 2026 (2026-07), Program at a Glance. <https://waic2026.worldaic.com/cn/program/program-glance/> (最終確認: 2026-07-19)
- [22] WAIC Academic 2026 (2026-07), Workshops. <https://waic2026.worldaic.com/cn/program/workshops/> (最終確認: 2026-07-19)
- [23] 中新経緯 (2026-07-17), WAIC 2026 著名研究者講演・学術論文の報道. <https://www.iwview.com/jingwei/html/m/07-17/679893.shtml> (最終確認: 2026-07-19)

- [24] 国家発展改革委員会／国家データ局 (2026-03-25), データ・トークン利用量、高品質データセットに関する発表.
https://www.ndrc.gov.cn/fzggw/wld/llh/zyhd/202603/t20260325_1404351.html (最終確認: 2026-07-19)
- [25] Digital China (2026-07-08), 中国 AI 関連産業規模・AI 応用浸透率に関する発表.
https://www.digitalchina.gov.cn/2026/xwzx/szxx/202607/t20260708_5344077.htm (最終確認: 2026-07-19)
- [26] Digital China (2026-07-14), 上海 AI 産業の企業数・売上・成長率に関する発表.
https://www.digitalchina.gov.cn/2026/xwzx/szxx/202607/t20260714_5346373.htm (最終確認: 2026-07-19)
- [27] 内閣府 (2026-07-14), 「人工知能基本計画 (第 II 期) ～日本 AX、より強く、より豊かに～」.
https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_plan/aipplan_20260714.pdf (最終確認: 2026-07-19)
- [28] 経済産業省 (2026-03-31), AI 事業者ガイドライン 第 1.2 版.
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/20260331_report.html (最終確認: 2026-07-19)
- [29] 個人情報保護委員会 (2023-06-02 (随時更新)), 「生成 AI サービスの利用に関する注意喚起等について」.
https://www.ppc.go.jp/news/careful_information/230602_AI_utilize_alert/ (最終確認: 2026-07-19)
- [30] 中国国家インターネット情報弁公室 (CAC) (2023-07-13), 「生成式人工智能服务管理暂行办法」. https://www.cac.gov.cn/2023-07/13/c_1690898327029107.htm (最終確認: 2026-07-19)
- [31] 中国国家インターネット情報弁公室 (CAC) (2025-03-14), 「人工智能生成合成内容标识办法」. https://www.cac.gov.cn/2025-03/14/c_1743654684782215.htm (最終確認: 2026-07-19)
- [32] 北京日報／央視系報道 (2026-07), WAIC 2026 のチケット販売・完売状況.
<https://xinwen.bjd.com.cn/content/s6a5735cfe4b0e45f3fd4ab74.html> (最終確認: 2026-07-19)
- [33] 財聯社 (2026-07-19), WAIC 2026: 中国上場企業の算力・ロボット展示まとめ. <https://www.cls.cn/detail/2430406> (最終確認: 2026-07-19)
- [34] Le Monde (2026-07-18), Artificial intelligence: Xi Jinping promotes open and accessible Chinese alternative.
https://www.lemonde.fr/en/economy/article/2026/07/18/artificial-intelligence-xi-jinping-promotes-open-and-accessible-chinese-alternative-to-challenge-the-us_6755604_19.html (最終確認: 2026-07-19)
- [35] 中国外交部 (2026-07-16), 世界人工知能協力機構 (WAICO) 設立協定署名関連発表.
https://www.fmprc.gov.cn/wjbxhd/202607/t20260716_11984399.shtml (最終確認: 2026-07-19)
- [36] 新浪／企業講演まとめ (2026-07), Tencent・Alibaba 等が示したエージェントと実装の論点.
https://k.sina.com.cn/article_7857201856_1d45362c00190892z2.html (最終確認: 2026-07-19)

— 以上 —